

「生活者としての外国人」
のための特定のニーズに
対応した日本語教育事業



文部科学省

日本語教師養成・研修
推進拠点整備事業

シンポジウム2025

ことばの多様性 とともに生きる社会

—手話の現在地とこれからの日本語教育—

2025.
12/14 日
13:30～16:30
(受付13:00～)

先着
100名
参加無料

会場



南山大学
G30

会場へは、正門からお入り
いただくのが便利です。

多様な言語と文化が交差する社会において、「ことば」はどのような役割を果たすのでしょうか。

本シンポジウムでは、「手話」と「日本語」、「母国の手話」と「日本で使われている手話」など、複数の言語が交錯する中で生きる外国籍ろう者、ろう者、難聴者の語りをとおして、ことばの選択とその背景にある想いに耳を傾けます。そのうえで、日本語教育の最新の取組や現状を知り、そこにある課題について、当事者、教育関係者、行政、地域での実践者など、さまざまな立場の登壇者がディスカッションを行います。「自分らしく生きる」ことを支える「ことば」とは何かをともに考え、多様な視点から、日本語教育が果たす役割とこれからのあり方について議論します。

※どなたでも
ご参加いただけます

申し込み
事前申込制

- ・外国籍のろう者、ろう者、難聴者の方
- ・日本語教育や外国人支援に関わる方
- ・手話や多言語・多文化共生に関心のある方
- ・自治体、行政関係者
- ・言語、ことば、社会づくりに関心を持つ学生・市民の方

など、ぜひご参加ください！

右記QRコードを読み取り
必要事項を記入のうえ
お申込みください

申込締切

12/5

金



手話通訳
文字起こし
(YYSYSTEM)
あり

業務運営受託団体：南山大学

(特非) 名古屋ろう国際センター

共催：中部圏SDGs 広域プラットフォーム

一般社団法人HORIZOPIC

協力：(株)アイシン BR YYSYSTEM事業推進部

※本シンポジウムは、文部科学省委託事業「生活者としての外国人」のための特定のニーズに対応した日本語教育事業および日本語教師養成・研修推進拠点整備事業の一部として実施するものです

NANZAN
UNIVERSITY

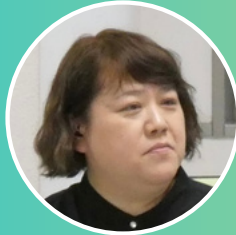


Central Japan SDGs Platform

中部圏 SDGs 広域プラットフォーム

ワイワイシステム
YY System

当日プログラム



わかはら はるか
若原 晴香氏

聴覚障がい者・デフファミリー

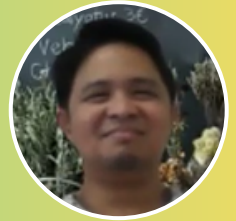
聞こえない子どもを持つ聴親を始め、幼稚園から大学生・医療関係者まで幅広く手話指導経験あり。聞こえのことを社会に伝える普及活動にも取り組む。



なかそね けいこ
仲宗根 恵子氏

難聴者・ペルー出身（クォーター）

2歳で来日、聾学校と地域の学校に通いながら手話と日本語を習得。子どもとのコミュニケーションでの「ことばの使用」について考える日々。おしゃれが好き、洋服のデザインなども手掛ける。



なかそね じゃん

仲宗根 ジャン氏
ろう者・フィリピン出身

ASLを母語に持ち、中3の時に来日し聾学校にて日本語と日本手話を学習。聞こえる我が子の未来のため日本語を学びつつ仕事に励んでいる。木工DIY、料理など多趣味。



うえだ たかひと
上田 崇仁氏
南山大学

「日本語教師養成・研修拠点整備推進事業」（中部ブロック）を担当。専門は日本語教育史。南山大学人文学部教授。

当事者の語り

「手話」と「日本語」、「母国で使用する手話」と「日本で使用する手話」等、言語が混在する中で生きる外国籍ろう者、ろう者、難聴者の語りを聴きます。

ファシリテーター



わだ たかこ
和田 貴子氏
HORIZOPIC

日本語教師の養成・研修ほか、地域や大学などで人材育成に携わる。留学生の他、難民、ろう者など多様な日本語教育の取り組みを展開
文部科学省地域日本語教育スタートアッププログラムアドバイザー



きたむら ゆうと
北村 祐人氏
文部科学省

総合教育政策局日本語教育課
愛知県出身。平成22年より豊田市・名古屋大学が共働した「とよた日本語学習支援システム」に従事。
平成28年文化庁に入職、令和6年4月より現職。

基調講演

話題提供

政府による日本語教育の最新の取組や現状についてご紹介し、日本語教育を取り巻く環境や課題を参加者の皆様と共有します。また、教育関係者、実践者、行政関係者など、さまざまな立場からの発表をととして、第2部のディスカッションにつながる事例を共有します。

パネルディスカッション

手話の社会的な立ち位置や、地域における日本語教育の現状を踏まえながら、「自分のことばで、自分らしく暮らす」とはどういうことか――

その間いを出発点に、教育関係者、実践者、行政関係者、そして当事者が集い、語り合います。日本語教育が担う役割とは？多様な視点からこれからの日本語教育のあり方をもとに考えます。



ひらた たかし
平田 崇氏
豊田市地域活躍部
多様性社会共創課

平成17年度、豊田市役所に入庁。
次世代育成課、秘書課、人事課、環境モデル都市推進課、国際課、農政課、農業委員会、国際まちづくり推進課を経て現職



ふくむら まきこ
福村 真紀子氏
茨城大学

専門は日本語教育学。
地域日本語教育の一環として2010年に「多文化ひろば あいあい」（東京都日野市）、2025年に「多文化ひろば★うみ」（茨城県日立市）を立ち上げる



なかしま たけし
中島 武史氏
兵庫教育大学

大阪府内の聾学校、聴覚支援学校で15年勤務・関西学院大学手話言語研究センター客員研究員も務める
著書に『ろう教育と「ことば」の社会言語学 - 手話・英語・日本語リテラシー -』（生活書院 2018年）がある。

モデレーター



まるやま そうすけ
丸山 宗祐氏
国際連合地域開発センター

豊田市役所に入庁後、国際まちづくり推進課で地域日本語教育の基本方針の策定等、日本語教育を中心に多文化共生施策を担当。現職では自治体のSDG推進の支援等に従事。